

迎古  夢旅 4493 : 立待岬にて② 169

急な上りだが、前方が見えないだけに興味津々。頂上が楽しみ。  
最小限の情報は必要だが、余分な知識は極力避ける。オリジナル、オンリーワンが望み。

「何似生」誰かに似ていると言われるのは好きではない。

三男坊。幼い頃、大きく傷ついている。人様の真似はしたくない臍曲がり。<sup>へそま</sup>



私の前に道はない、私の後に道ができる。確か**高村光太郎**の言葉だったと思う。  
夢として**自分の感性**が最優先。納得の行く道を選択したい。おつりの人生、50歳からの夢挑戦  
理屈をつけて、そんな難しいことを考えないで、楽しんだら、いかがですか。

いやはや、性分は、なおりませんね。自問自答。

瞬間湯沸かし器の熱中型。瞬き・瞬間の画像をコレクションしたい。

「立待岬」名前のいわれはアイヌ語かららしい。岬に魚の大群が来るのを待っていたという。

自然に従順に、自然体で、時を待つ。人間の知恵。

事柄は違うだろうが、**自然の<sup>つら</sup>理**を推測して、共生することの大切さ。

コンピューターがいくら発達しても、山はみどり、野に花、人にはこころ。感情もある。

夏目漱石、知に働けば、角が立つ。情に<sup>まよ</sup>棹させば、流される。

瞬間的な感性で、対象や相手の環境や状況を知ること、いい画像記録が残る。

天気が味方してくれると嬉しいのだが。しばらく待った。  
雲行きが怪しくなってきた。函館山のロープウェイを見ている場合ではない。  
しばらく、<sup>なご</sup>凪だった。風が強くなった。天候がコロコロ変わる。  
どれだけいたのか。久楽には素敵な時間。いろいろアイデアも浮かんだ。  
風を読み、時折、小雨にも遭遇したが楽しく遊ばせてもらった。眼前は、**津軽海峡・冬景色**。



絵画のモチーフにしる、文学にしる、<sup>クラーク</sup>久楽の行くところに碑があったりすることが多い。

西行法師、松尾芭蕉、文学者や画家、先人、旅好きの人が多い。

目撃の衝撃。南端九州から北端宗谷まで、日本縦断、ひとり旅を体験できた幸せ。

結果として、文学碑や歌詞と出会うことが多かった。

オリジナル、オンリーワンは、なかなか難しい難題と、百も承知だが・・・